

武庫川縦断シリーズ④

広野から道場・新旧武庫川

第 195 回武庫川エコハイク

2023. 9. 9 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 広野駅 阪鶴鉄道が三田まで開通した明治 32 年(1899)に開設された。

広野排水ポンプ場 昭和 50 年ごろまではこの辺りの武庫川は天井川でこの地区は内水被害に会っていた。これを解消するために大規模の排水ポンプ場が設けられた。

塩掛橋の道標 塩掛橋の西側にある排水ポンプ場の敷地の中に中山から大川瀬に至る文字が見える、24 番札所中山寺から 25 番清水寺への巡礼道の道標である。

内神川合流 三田ウッディタウンを流れる内神川、下内神川が右岸で合流する。

嫁ヶ淵 武庫川の物語の残る淵の一つ、河川改修でその面影は失われてしまった。右岸に祠があり行者役小角(えんのおづぬ)の石像が祀られている。

嫁ヶ淵の伝承 むかし武庫川の左岸の井澤に住む仲の良い若い夫婦が住んでいた。姑はこの夫婦の仲のよいのをねたみ、男が留守になった時、田植えを頼んだ。でも田は広く日が暮れても終わらなかった。そこで嫁は日頃の姑の仕打ちを思い出して武庫川に突き出した岩から身を投げたという。岩には人の足型が残っていました。嫁の霊を弔うため祠を建て「嫁ヶ淵」と名づけた。

青野川合流 上流に**青野ダム**、**千丈寺湖**を持つ青野川が左岸で合流する。

西野上水位観測所 青野川合流点から下流に西野上の県の水位観測所がある。

兵庫県三田浄水場 青野ダムは用水、治水の多目的ダムで、上水、農業用水の水源である。青野ダムから放流される水を武庫川本流で**ファブリダム**(ゴム引布製起伏堰:住友電気工業の登録商標)で止め、三田浄水場で上水と西野上の農業用水を取水する。

大池川合流 福島大池を上流に持つ大池川が左岸で合流する。**福島大池は僧行基**が開削築造した灌漑用のため池で現在有馬富士公園の中心。行基はため池の他武庫川の流れを変え、洪水被害を抑えた。これでこの地区を「**川除(かわよけ)**」と改称したという。

えるむ橋 北摂三田ニュータウンの開発、新三田駅の開設に伴い架設された橋、ニュータウンの街路、橋には植物の名前が命名されている。

ふるさと桜づつみ回廊 「桜づつみ」とは、洪水から堤防を守るために必要な堤防断面に加えて、**堤防の市街地側に土を盛り、そこに桜を植栽するもので**、これは堤防を強化するとともに積極的に良好な水辺空間の形成を図るものです。兵庫県が瀬戸内海と日本海とを桜で結ぶ計画のうちの三田区間は平成 3 年に完成。毎年春「さくらウォーク」が開催され、何千人もの人が桜づつみ上を歩く。

平成井堰 もともとここに針杭井堰があったが河川改修で改築され、両岸の川除地区への農業用水を取水する。

旧武庫川河川跡と松山堤 川除地区は洪水に見舞われることが多く、昭和 60 年代に武庫川の治水の為このあたり川除の武庫川を付け替え直線化した。大きく西に蛇行していた河道を直線化した。池尻川との合流点ある小公園に記念碑がある。今県道が走る松山堤は旧河川の堤防。

池尻川合流 武庫川右岸の丘陵から流出する支流のひとつ。

川除藤ノ木遺跡 河川改修時に縄文時代の大規模な集落跡が発見された。このような低地に集落が築かれていたことがわかった。

御殿橋(おとのぼし) 九鬼の殿様が対岸の川除に通ったと言う橋。旧武庫川にあり付替えられた橋。

旧河川敷 武庫川付け替えて生じた旧河川敷には、三田市の文化センター「郷の音ホール」、総合福祉保健センター、JA「パスカル・さんだ」などが立ち並ぶ。

三田大橋 三田市役所から西に武庫川を渡る橋、三田市になって作られた。周辺に「**古城(ふるしろ)取水堰**」「**古城取水場**」がある。ここに九鬼家の水練場があり、明治時代篠山からの船便がここに着いた船着場があったといわれる。

市街地の武庫川改修 市街地を流れる武庫川の改修は昭和 50 年代に川幅を広げ 37m から 53 m にし、川底を 2~3m 掘り下げ、両岸に管理道路をつけるという大工事であった。

車瀬橋 三田市街地に架かる最も古い橋、18 世紀末に描かれた「撰津名所図会」に「車瀬の蜚見」がある。かつては蜚が飛び交ったと言う。現在のものは昭和 59 年に架け替えられたもの。

一乗寺跡 かつて一乗寺池があった、この辺りは武庫川の堤で洪水のたびによく切れる「正宗堤」があり、犠牲者を弔うため一乗寺が建立された。今は一乗寺公園になり、一乗寺地蔵尊が祀られている。まんねん橋の欄干が残されている。

下田中旧武庫川河川敷 度重なる洪水の被害から守るため、昭和 50 年代に下田中地区を大きく西へ迂回して流れていた武庫川を付け替え直線化し堤防を強化した。今も旧河道が見える。

三田水位観測所 鉄屋橋に県の水位観測所がある。

三田市環境センター 三田市環境センターはし尿処理を行っている。処理水は県の浄化センターに送られている。センター前の道路は旧国鉄有馬線(1915~1943)の廃線跡である。

塩田 ここから神戸市北区である。旧有馬線路跡がある。古い荘園の一つ塩田荘、**石清水八幡の荘園**でもあった。塩田八幡はその別宮。

越流堤 有馬川合流点上流の武庫川右岸の堤防が 1 段低くなっているが、これは大雨時堤防内側に溜まる内水をはかすためのもの。(越流堤から洪水の一部を調整池などに流し込む構造)

有馬川合流 六甲山を源流に持つ有馬川が右岸で合流する。武庫川で 2 番目の規模の支流。武庫川の本川に比べ勾配が大きく川幅も広く、武庫川の流れを遮ったので洪水が頻発したので、河川改修で有馬川と本川が**背割堤**(合流点を下流へ移し)で分けられて洪水が解消された。この辺りは古墳群が多く発見され、尼崎学園周辺、鎚射山周辺に多い。6 世紀ころのものと言われている。

船坂川合流 六甲山石宝殿近くを源流とし、西宮市船坂、金仙寺湖(西宮市の水源)、鎌倉峠を経て、畑久保橋で武庫川に合流する。

富士チタン工業 酸化チタンなどの製造会社、昭和 12 年に神戸工場として創業、石原産業の 10 0%子会社。武庫川から取水している。

JR 道場駅 阪鶴鉄道が三田まで開通した明治 32 年(1899)に開設された。千苺水源池、鎌倉峠、百丈岩ハイキングの玄関口。